

人と自然と文化にやさしい地域づくり

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

7

明日を拓く — 成果を検証する —

令和2年 No.1301



令和元年度 第72回山口県学校美術展 推奨作品
「雨上がりのこもれびに」
下関市立長成中学校 3年生(受賞時) 和田 樹花

■地域貢献

答えのない問いに挑む!

山口県立萩高等学校	教諭	村上 幸恵
山口県立萩高等学校	自然科学科3年	山本有季美
山口県立萩高等学校	普通科3年	吉屋 瀬那

地域の子は地域で育てる

牟礼ミラタクネットコーディネーター		
防府市牟礼公民館社会教育指導員	高崎	豊子
ミラタク活動紹介		

■わたしの潤い

下関支部	入江	裕美
岩国支部	秋本	啓一

■やまぐち見てある記

長門市くじら資料館

■教職時代を偲ぶ

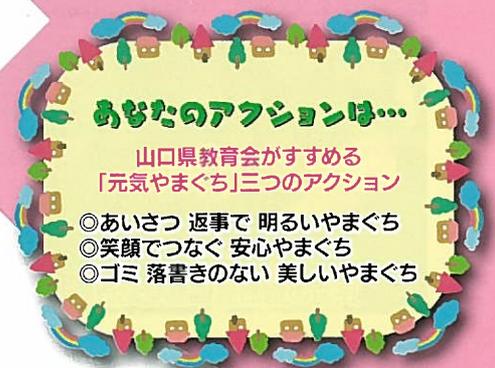
周南徳山支部	渡部	靖徳
--------	----	----

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



あなたのアクションは...

山口県教育会がすすめる
「元氣やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

探究的な学習で地域の担い手に！



山口県立萩高等学校

教諭 村上幸恵

世界遺産認定、萩ジオパーク認定、明治維新百五十年…、注目が集まる萩市。萩高校は、「世界遺産の中にある学舎」として創立百五十周年を迎える歴史ある高校であり、周辺は探究的な学習の素材の宝庫だ。生徒たちは、幼少期から松陰先生に慣れ親しみ、白壁と夏みかんで彩られた道を登校し、クラスマッチでは「松陰かるた」を行うなど、地域に愛着をもっている。一方、「萩には何も無い」と都会への憧れを強く抱いているのも否めない。本校では、普通科と探究科に入学生した全生徒が、二年次において探究的な学習に取り組んでいる。具体的には、普通科の「萩グローバル・ラーニング（HGL）」、人文社会科学科の「アクティブ・リサーチ（AR）」、自然科学科の「課題研究」である。（探究科は二年次に人文社会科学科・自然科学科の二つに分かれる。）探究的な学習は、自ら課題を見つけ、仲間と協働して改善策を模索しながら解決していこうとする学習である。ここでは、本校の現状を踏まえた探究的な学習の取組について紹介する。

探究的な学習に向けた素地づくり

二年次の探究的な学習は、少人数の班で行っている。そのため、一年次のうちに、教科の授業を通して、互いの意見を尊重する態度、クリティカルシンキング、コミュニケーション力を体験的に身に付けさせている。また、毎年秋に実施している講演会とグループワーク「熟議」では、萩の課題解決につながるようなものを実施している。加えて、山口大学留学生とのサマープログラム、鎌倉市との交流、修学旅行での様々な交流・研修、韓国慶尚南道や蔚山市での交流、海外研修等、国

内外問わず多くの交流会に生徒は積極的に参加し、語学力はもとより、傾聴力、発信力、寛容性の育成につながる経験を積んでいる。

探究的な学習の実際

まず、探究科の取組である。「AR」では、地域に密着したテーマを設定し、他国との状況を比較したり、実地調査に出かけたりして研究し、高校生としてできることを提案した。また、この研究成果を世界中の人にも伝えられるよう、英語での研究発表も行った。「課題研究」では、教科「理数」の視点から地域の素材を捉え、疑問や課題を解決していく中で、新たな法則を見つけるなどの研究を行った。二月の校内研究発表会では、年間を

(表) 研究テーマの例

探究学習名	研究テーマ (HGLは関連するSDGs番号)
AR	猫の殺処分を減らすための取り組みと猫との共生 のんたまちアピリ隊 高校生の、動画による、あなたのための萩七色ガイド
課題研究	竹紙降臨～技の伝承をめざして～ 萩特産品の物理特性と官能評価による検討 丘の上の萩反射炉の研究
HGL	君のハートにしーまーと (SDGs11) 反射炉の魅力を伝えよう～外国人観光客へ～ (SDGs9) 砂浜を美しく保とう～鳴き砂の作り方を通して～ (SDGs14) 萩野菜で人々の健康を守るう (SDGs3)

SDGs17の目標：
 3 すべての人に健康と福祉を
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 11 住み続けられるまちづくりを
 14 海の豊かさを守ろう



漆喰で、実験用のミニチュア自壁を作成



民泊の宿泊者と意見交流

通して研究へ助言を得ている山口大学の先生方にも審査していただいた。

次に、普通科の「HGL」では、萩のローカルな課題に対して、グローバルな視点から解決を図るため、市役所、博物館、明倫学舎、JA等の関係機関と連携しながら研究している。特に、昨年度は「国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）」を関連付け、生徒が考える課題を世界規模の視点にまで引き上げ、テーマを設定した。そのため、観光地としての活性化、環境保全に向けた取組など、世界の中の萩を捉えたテーマが並んだ。中には、隣接する萩中学校のご協力をいただき、中学生に萩野菜の周知を図る給食メニューが採用された班もあった。

おわりに

三月に開催する探究科の山口県探究活動発表会、普通科の校内ポスターセッションが中止となり、成果を伝え共有する場がなくなったことは残念であった。しかし、研究の過程で、多くの生徒が「何も無い」と思っていた萩市には多くの良さがあり、もっと広めていく必要があると考えが変容していった。探究的な学習では、自分という小さな世界だけでなく、地域に参画していこうとする態度を養うことができている。これは、三年次に選挙権を得る生徒がいることから、とても大きな成果であった。

今後、多くの生徒が進学し萩市を離れていく。探究的な学習は、地域に参画したいと思つた生徒にとつて「学んだ後は地元へ貢献したい」と考えるよい機会となっている。

竹紙降臨！技の伝承をめざして！



山口県立秋高等学校
自然科学科 三年 山本 有季美

萩高校自然科学科では二年次に「課題研究」を行っています。これは自分の選んだ分野でテーマを定め、一年間グループで研究するというものです。

私の住む萩市では昔から市内の竹林の整備、新たな竹製品産業の創生を目的とした様々な取組が行われていました。しかし、現在では、竹から紙を作る「萩竹紙工房」のみとなり、その主催者も一人であるという現状を知りました。私たちは、竹紙という和紙のもつ美しさや温もりを多くの人に知ってもらいたいという思いで竹紙の研究をすることに決めました。

長年の経験と勘で行われている製法を科学的に分析し、数値化することを目標に研究を始めたのですが、材料に最適な竹の硬さの数値化や、実験結果や考察をまとめ方など、多くの課題にぶつかりました。それでも新しいことを発見したり、予想外の結果が出たりするうちに次第に楽しくなってきた。放課後や夏休みに皆で協力して研究を行いました。結果をまとめ、発表するためにスライドを作り何度も練習をしたことなど、一年間の研究は私にとって成長するための貴重な時間となりました。



萩竹紙工房での調査

コミュニケーション能力をさらに高めることができました。それと同時に、ご高齢の工房主催者の方が生き生きと私たちをご指導してくださったり、地域の方々と協働して取り組んでいらいっしょだったりする姿を見て、少子高齢化の進む過疎地域では若い世代の私たちが高齢者をサポートし、その生きがいや暮らしを守る仕組みづくりを行っていかねければならないと強く感じました。私は将来医師を志しているので、地域医療に貢献していきたいです。



萩の浜新聞に掲載されたフロアマップ

萩高校普通科では二年次に「グローバル・ラーニング(HGL)」という学習を行います。これは、萩地域の課題を見出し、その解決策を考え、発信する学習です。

私たちの班では、萩市を代表する道の駅「萩しーまーと」から萩市を活性化したいと考え、「しーまーとで萩を盛り上げよう！」というテーマのもと、研究を始めました。

まず、現状を把握するため、しーまーとの駅長さんを訪ねました。お話の中で私たちが着目した点は、「しーまーとがオープン当初は地元客をターゲットにしていた」ことです。私たちは駅長さんの思いも踏まえ、しーまーとの地元客を増加させることで萩市を活性化させたいと考えました。そこで、



フロアマップで集客アップ

山口県立秋高等学校
普通科 三年 吉屋 瀬那



萩しーまーとでお客様にインタビュー

お客様のニーズを知るために、しーまーとで八月下旬に聞き取り調査を行いました。その結果、地元客と観光客の割合がほぼ同じであったこと、「店内の配置が分かりにくい」という意見があることが分かりました。この課題を解決するために、フロアマップを作成し、しーまーと発行の「萩の浜新聞」に掲載していただき、お客様に店内を知ってもらおうと考えました。

さらに、駅長さんの計らいで新聞折り込み広告として市内各家庭へ配布することもでき、市民の皆さんに見ていただくことができました。その後「お店のおススメがよく分かったよ」と声を掛けられることがあり、PR効果があったのではないかと思っています。私は、HGLを通して、改めて萩市の魅力を知ることができました。また、多くの方の御協力があり研究が進みました。今度は、私が地域に貢献できる大人になりたいと思います。

※「グローバル」とは、グローバルとローカルを掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する」という考え方で

学びの連携部会

牟礼小、牟礼南小、牟礼中の児童・生徒で漢字検定に取り組みました。小学生が大人と一緒に勉強し、中学校で受検という体験は緊張感があり得難いものでした。元年度は、少額ですが補助金を出しています。また、小学生に英語に親しんでほしいと、ALT、中学校教諭、中学生とともに活動する場を設定しました。



英語で遊ぼう (小・中学生、ALT等)

地域貢献部会

7月の青少年育成連絡協議会と12月の自治会連合会の清掃活動に、両校の中学生、教員が参加しています。社会福祉協議会主催の夏祭りでは、中学生のヨーヨーコーナー運営、文化祭では幼稚園児の遊戯、小学生の開会宣言と卵つかみコーナー運営、中学生の出演や各コーナーの手伝い、会場づくりなどの活動をしています。

子どもたちが頑張っている様子がわかり、誇りをもって活動できるように、牟礼ミラタクネットのスタッフエプロンを用意しました。また、牟礼中学校で作成したボランティアベストへの助成をしました。



地域の清掃活動

ミラタク活動紹介



中学生との高齢者教室

地域の方の学校見学では「普段は学校の側を通るだけだけど、校長先生からの説明や授業など、最近の様子を知る良い機会になる。時代の変化を感じた。子どもたちが元気に素直に育ってほしい」などの声がありました。

8月、防府東包括支援センター職員を講師にした高齢者教室に中学生が参加し認知症について一緒に学びました。

あいさつ部会

家庭であいさつについて話し合っしてほしいとの意図から、各校各家庭1票で標語を選出し、のぼり旗を作製しました。小学校用には、両校のキャラクターを入れています。あいさつ月間としている5月と11月に、両小児童が書いたチラシを市広報配布時に地域に回覧しています。牟礼南小ではあいさつ月間にあいさつのタスキをつけて登下校しています。



あいさつ月間の取組

児童生徒の感想

子どもの活動の場が増えていく一方、参加した子どももがどう思ったのか、学校以外にはなかなか伝わりません。そこで地域各戸に配布される社協だよりで感想の一部を紹介しました。

いろいろな人が拍手してくれたのでうれしかったです。あいさつできたし、笑顔であいさつされてうれしかったです。地域のひととの交流はやっぱりいいと思いました。(小6)

普段かかわることのない地域の人たちとたくさん話した。この人たちのために頑張ろうと思うようになりました。私も五年後には人のために働くので、働くということがどういふことかわかってよかったです。(中3)

たくさん大人の方々がボランティアをしてくださっていると思いました。みんな地域を愛していると思いました。(中3)

地域のひととは最初緊張しましたが、徐々に慣れられてきました。積極的に仕事に取り組みでいき、思った以上に早く仕事が終わったのでびっくりしました。ボランティアがこれほど楽しいとは思いませんでした。(中3)

ボランティアに何度も参加するうちに、やりがいを感じ始めました。終わった時、地域の皆さんから「ありがとう」という声をたくさんもらい、とてもよい気分になりました。僕がボランティアに参加するのは「ありがとう」と言われた時に達成感があり、とてもうれしいからです。(中3)



中学生がヨーヨーコーナーを運営

主にテントを立てたり運んだり、力を使う活動でした。一人じゃできないことも、みんなが力を合わせることで、すごく楽に組み立てることができ、とてもやりがいのあるボランティア活動でした。地域の人からの感謝の言葉ももらって、とてもよい気持ちになりました。これからも積極的にボランティア活動に参加していこうと思います。(中3)



中学生が夏祭りの準備に参加

書道とわたし



下関支部

入江 裕美

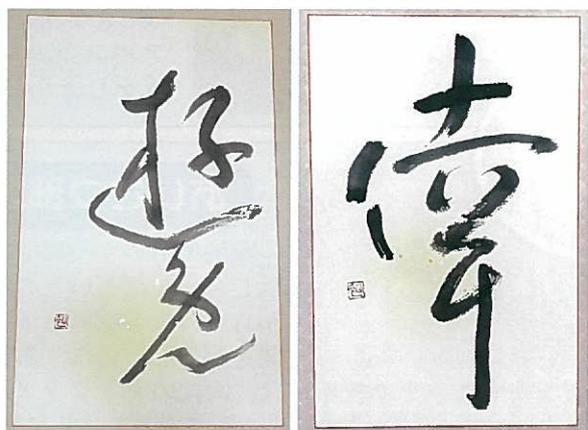
退職して早いもので、もうすぐ十年になる。現役の頃から、ジムや旅行、スイミングなど、いろいろ楽しんできたが、今でも続いているのは書道のみになった。友人から誘われて通うようになり、二十五年がたつ。その間決して真面目に取り組んでいたわけではなく、作品は少ない。

毎年作品展に向けてやる気を出すことに苦労している。先生は同年配ということもあり、いつも優しく見守っていただいている。時には愚痴を聞いてもらったり、女子会で食事をしたりと楽しい時間を過ごさせていただいている。

なかなか上達しないのにやめようと思っていないのは、自分にとつて心の安らぎが得られるからかなと考えている。かな書道を練習していたのだが、五年前、娘が一人目を産むことがわかった時、めでたい感じを表したいと「寿」を選んだ。それから「倅」「響」「遊免」と続け、毎年、先生と相談し、今年は何を書こうと悩む楽しみと、できあがってながめる喜びを、これからも続けていこうと思っている。

誘ってくれた友人のお宅は、まるでギャラリーのように作品に囲まれている。そこまではできないが、あわただしい日々の中でふと目をやり、ゆとりを取り戻せる自分らしい作品づくりをしたいなどと考えている。

最近は一歳になる孫の成長に驚き、負けないようにと体を動かしたいの、一歩も二歩も遅れる現実には直面している。心を豊かに描き続けることと体力をつけることが課題である。



「倅」(右)と「遊免」(左)

カメラを片手に



岩国支部

秋本 啓一

陽気に誘われ、錦清流線の桜を写しに行つた。列車と桜の撮影に訪れていた人の多さに驚いた。毎年この季節に広島から来られるとか。

その時、光の当たり方やアングルによつて写真の印象が変わつてくると言う話を聞き、写真について勉強してみようと思ひ立つて、六年前、NHKの写真講座を受けることにした。毎月二枚の写真を送つて添削してもらう。

まず最初に、錦帯橋の桜と孫の写真を送つた。次からは愛犬や子どもたちが遊んでいる様子、旅行先の風景などを写して送つた。

「撮るときには漠然と撮るのでなくテーマをはっきりさせて。狙いを決めたら、カメラの位置やアングル、フレーミングをかえて何枚も撮ること。シャッターチャンスが来るまでじつくり待つことも必要」等々、送るたびに多くのアドバイスももらった。

写真に題名をつけたり、撮影の意図などを書いて送るのだが、これがなかなか難しい。しかし、写した写真を見直すきっかけとなり、よい勉強になった。

意図がはつきりわかるよう、シンプルに写すことを心がけ、焦点化したつもりでも、写真になるとあれもこれ

も写り、何を狙ったかわからなくなることもしばしば。かと思えば、目で見るときには気がつかなかつたものが写っていることもあって、写真撮影はなかなかおもしろい。

最近、錦帯橋や錦清流線の四季の変化、地域の祭りなどの撮影に興味を持つている。そのおかげか今まであまり気にしなかつた季節の変化に気づくようになり、心が豊かになつたような気がする。

これからも、カメラを片手に季節を感じながら写真撮影を楽しみたい。



国の重要無形民俗文化財岩国行波の神舞 (ゆかばのかんまい) 七年に一度行われる。(2019. 4月撮影)

長門市くじら資料館

日本一小さな資料館

童謡詩人・金子みすゞさんの故郷「仙崎」と青海島とを結ぶ青海大橋をわたり、車で十分、道なりに進めば鯨の資料館としては日本一小さい「くじら資料館」に到着します。

資料館のある通（かよい）地区は、周囲を日本海と仙崎湾に囲まれた漁業のまちです。ここでは、江戸初期から明治四十一年までの約三百年間、古式捕鯨が行われていました。その時の貴重な文化財を一堂に集め、鯨文化を後世に伝え、情報発信する拠点として、くじら資料館が平成五年に開館しました。開館以来、県内を中心に主に福岡、広島から多くの人が訪れ、令和元年には入館者が五十万人を突破しました。今回はこのくじら資料館の取材とともに通地区の海と鯨と人の歴史を紹介します。



くじら資料館

くじら資料館

取材には、館長の早川義勝さんが対応してくださいました。平成二十一年から館長を務めておられます。国指定重要文化財「早川家住宅」の当主でもあり、鯨組の建造物としては全国で一つだけの貴重な漁家を今も大切に守っておられます。また、早川家は代々二百八十人からなる通鯨組の組頭として活躍した家柄で、捕鯨について大変詳しく丁寧に教えていただきました。

くじら資料館は二階が展示室となっており、藩政時代から明治後期までの国の重要有形民俗文化財に指定されている鉈、剣、望遠鏡などの捕鯨用具三十四点のほか、さばぎ包丁・大包丁・釣などの解体用具三十三点、縮桶・火鉤などの加工用具九点、そのほか鯨とともに生きた漁師の写真や鯨唄に使われた太鼓など、当時の捕鯨文化や人々の生活の様子を伝えていきます。鉈や剣など、このくじら資料館で見ることができないものもたくさんあります。



早川家住宅

中でも、鉈は長さ三m、重さ二・五kg、剣は刃渡り六十cm、重さ七・八kgのものあり、大きさに驚かされ、命がけの勇壮な当時の鯨捕りの様子を身近に感じることが出来ます。当時の捕鯨は、産卵のため沿岸近くを回遊する鯨を網に追い込み、囲んで鉈で突きとる「網取捕鯨」でした。鯨の姿が見えると、勢子船で海上の鯨めがけて一斉に漕ぎ出し、鯨を湾内に追い込んで網をかけ、網に絡まったクジラに鉈を投げます。弱ったところに、剣を打ち、最後は、刃刺（ハザシ）と呼ばれる役が鯨の上に飛び乗っ



解体用具の包丁類



鉈・剣などの捕鯨用具

命の学習

通の人たちにとって、鯨の殺生を目の当たりにすることはひどく心を痛めることでもありました。そこで犠牲となった鯨たちへの感謝の情を忘れることはなく、人間と同じように「鯨位牌」、「鯨鯨過去帖」で供養を営むようになりました。さらに、「鯨墓」を立て、鯨の体内から出てきた胎児を哀れみ、供養してきました。全国には、鯨の碑は九十近くありますが、鯨の胎児を埋葬したのはここ、通だけです。早川さんは、こうした、通の漁師たちが自分の命と同様に鯨の命を大切にしてきたことを、社会見学に来た児童へ伝え、いじめをしないうことや命を大切にすることを教えているそうです。



鯨墓（70数体の鯨の胎児が埋葬）

唄い継がれる唄

最後に、早川さんが鯨唄を唄ってくださいました。取材した日は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、休館日でしたが、館内に響き渡る張りのある声と風格のある姿で、鯨に感謝の気持ちを忘れたかった通地区の漁師や地元の方々の真心が伝わってくるようでした。鯨唄は大漁を祝う唄で一般的に、祝い唄は、手を叩いて調子を取りながら唄われますが、この「鯨唄」に限っては、鯨に対する恩恵と感謝の気持ちを表すとともに、鯨の死を心から悼んで、唄う時にも手を叩かず「揉み手」で行われます。

鯨組のなくなった今は、早川さんをはじめとした「鯨唄保存会」によって小学生に継承されています。通小学校では、全児童が「鯨唄」を学んでいます。通地区では、四十八歳以下の人はみんな鯨唄が唄えるそうです。



早川館長さんによる鯨唄

明治半ばになって鯨の数も減り、近代様式捕鯨へと歴史は移り変わっていきますが、この資料館を訪れると、鯨の歴史文化がいまでも生きびいつているまことに出来ると思います。

住 所：〒759-4107 山口県長門市通671-17
TEL 0837-28-0756
開 館：9:00-17:00（最終入館16:30）
休館日：毎週火曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館）
12月29日～翌年1月3日
入館料：一般200円（160円）、小中高校生100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金

教職時代を偲ぶ

再任用教員として、今も



周南徳山支部
渡部 靖徳

私の新採一年目は、厚狭郡楠町立（現在宇部市立）船木小学校に始まります。武田鉄矢さんの「贈る言葉」が大ヒットした年でした。船木では社会教育でもお世話になり、コーチとして関わった女子の船木ミニバスケットボールクラブが、創部九年目に悲願の全国大会出場を果たしました。二校日はマレーシア・クアラ Lumpur 日本入国学校です。幼稚園・小中学校で計七百名の規模でした。首都圏からの子どもが多い中、「先生の山口弁、懐かしい」とその頃の教え子に言われます。

三、四校目は新南陽市立（現在周南市立）富田西小、富田東小です。富田西小学校では、顧問をしていた合唱部が、KRY母と子のコーラスフェスティバルに出場、フェスティバル大賞を受賞し、副賞としてピアノを頂きました。次に、平成十三年から三年間、山口県立育成学校に赴任しました。育成学校はかつての教護院です。育成での年月は、忘れられないものです。どの子も愛されるためにこの世に命を授かったはず。教育には、厳しさと共に、深い愛情が不可欠であることを知りました。

その後、周防大島の明新小では、文科省指定校として「豊かな体験活動」に二年間取り組み、また合併後の大島で「町教研」の立ち上げに関わりました。次の赴任地上関町では、町の教育委員会で小中一貫教育の事務局を担当しました。上関の二小一中は現在も教育課程特例校で、小一から中三までの英語教育九年間カリキュラムを実施しています。

コミュニケーションスクールで心に残るのは、周南市の桜木小です。校庭の芝生化やコミスク合唱団が懐かしく、また桜木夏まつりに全職員で参加し、「先生方は地域

の宝」と、PTAの役員さんからお褒めの言葉を頂きました。

校長として初めて赴任したのは岩国市立天尾小です。「今年で休校」これが引継でした。最後の運動会を盛り上げようと近隣小中高校、地元専門学校や地域、そしてペリースクールから友情出演を得て行いました。

さて、残りの紙面を「英語教育と私」について、割きたいと思います。平成十年、四十一歳の時、山口大学大学院に行かせて頂きました。研究テーマは小学校英語教育です。平成十九年には、文科省の中央研修に参加し、全国の先生方から刺激を頂きました。以後ずっと小学校の英語教育に関わっています。それぞれの職場で指導主事、教頭、校長として小学校英語の授業を実践してきました。米川小、井関小では、校長として学校経営の中核に外国語教育を位置付け、校内研修の活性化に取り組みしました。

退職後の平成二十九年四月、かねてからの念願が叶い小学校英語の先進地、台北市、韓国・京畿道、釜山市の三つの小学校を視察しました。いずれも英語教育がしっかりと小学校教育に定着していました。そして帰国後、五月より、非常勤で周南市立岐陽中学校の英語科教員になりました。小中の学びの接続を自ら確かめたい、と思ったからです。この経験のおかげで、小中英語教育の「つながり」や「課題」が見えてきました。また、岐陽中二年目に始めた英検への取組を今も続けています。

今年三年ぶりに、「英語専科教員」として小学校に戻りました。富田西・富田東小の兼務です。今の目標は？と問われたら、日本の小学校英語の未来に思いを馳せつつ「小学校英語にはこんな良さ、そして留意点があるね」と若い先生たちに少しでも伝えたい、その一念でしょうか。ともに学びながら...



報告

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第一回通常理事会（五月二十九日）を中止し、次の議案第一号から第三号を「書面表決書」によって表決していただくよう理事の皆様へ依頼しました。

第一号議案 令和元年度事業報告及び決算について

第二号議案 令和元年度公益目的支出計画実施報告書について

第三号議案 定時評議員会及び臨時評議員会の開催について

お知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今後開催予定の事業の実施について、検討を行った結果、次のとおり、延期並びに中止の措置を取ることとしました。

○第十九回やまぐち教育の日・第四十八回教育県民大会下関大会……………令和三年度に延期

※今後の計画

下関地区大会（令和三年）

岩国地区大会（令和四年）

山口地区大会（令和五年）

厚狭地区大会（令和六年）

周南地区大会（令和七年）

○「第三十三回金子みすゞ賞」童謡詩・「第十二回わたしの志」作文の募集及び表彰……………中止

※令和三年度は募集を再開し、下関大会で表彰式を行います。

○第十一回青年教師の集い……………中止

○第七十二回日本連合教育研究大会香川大会……………令和三年度に延期

※第七十四回日本連合教育研究会山口大会は令和五年の開催となります。

助成事業は、これまでどおり実施します。引き続きご利用いただけますようお願いいたします。